

平成28年度使用中学校用教科用図書の 桶川市教育委員会における採択案協議の議事録

開催日時 平成27年7月16日（木）午後1時30分
平成27年桶川市教育委員会第3回臨時会
会場 桶川市役所（仮設庁舎）会議室303
出席委員 6名（欠席委員 なし）
傍聴 なし
事務局職員 5名

議事の経過と発言の概要

（委員長）

「平成28年度使用中学校用教科用図書の採択案について」議題に供する。事務局より説明を求める。

（事務局）

目的として、平成28年度使用中学校用教科用図書の採択にあたり、第2回第七採択地区教科用図書採択協議会での選定の協議を実施する。桶川市教育委員会としての採択案について協議を行う。今後のスケジュールとして、第2回第七採択地区教科用図書採択協議会が、7月23、24日に開催される。場所は、桶川公民館である。出席者は、委員長、教育長である。

（委員長）

平成28年度使用中学校用教科用図書の採択原案について協議を行う。委員には、中学校の図書全般にわたって研究していただいた。順次、教科別に意見をいただく。初めに国語である。

国語

（委員）

光村図書がよい。各題材において学習の流れの工夫がある。また、ねらいが分かる工夫、文法・漢字の充実、題材のよさが挙げられる。教育出版もよい。言葉の力を子供たちにしっかり伝えたいという意図が明確である。1～3年を通して全体を貫く構成となっている。古典においても3年間を見通したものとなっている。

（委員）

学校図書がよい。古典についての関心を高めるための工夫があり、文法内容がしっかりしている。古典に力を入れている。声に出して覚えさせることもよい。また、光村図

書もとても整っている。

(委員)

中学校に入学した子供たちが目にする最初のページを比べた。光村図書は、絵本のよ
うにきれいで、ページレイアウトの工夫があり、分かりやすい文章で学習に取り掛かり
やすくなっている。

(委員)

伝統文化を中心に見た。教育出版を1番に薦める。1年で古典、2年で伝統、3年で
文化をつなぐという日本文化の継承がある。次に光村図書を薦める。発達段階に応じた
単元の配列の工夫がある。

(委員長)

国語については、光村図書、教育出版、学校図書がよかったという意見があった。多
い順で言うと、光村図書、教育出版を桶川の案としたらいかがか。

(委員)

異議なし。

書写

(委員長)

次に書写について協議する。

(委員)

光村図書がよい。具体的な場面で「書」がどう生かされているのか丁寧に取り上げら
れている。巻末の資料が充実している。教育出版もよい。目標、試し書き、考えよう、
生かそう、振り返りといった段取りをおった形で学習するようになっている。高村光太
郎や奥の細道などの教材、声に出して、響きとしての日本語、美しい日本語が取り上げ
られている。穂先が通る部分が分かりやすくなっている。

(委員)

光村図書は、日常の書式や活用のヒント等が、書写辞典として示してある。教育出版
は、毛筆の手本において細かいところまで配慮してある。書式の教室は、社会人として
のマナーをしっかりおさえてほしいというねらいがある。

(委員長)

光村図書、教育出版を並列で案とする。いかがか。

(委員)

異議なし。

地理

(委員長)

次に社会科の地理分野について協議する。

(委員)

領土をめぐる問題を記載したものがよい。例えば、竹島の場合では自国の領土を主張するために、日本が提訴していることやどれだけやっているか等、今の日本の現状をどれだけおさえているかといった内容である。そういう意味では、帝国書院を推薦する。

(委員)

何を勉強していくのかという表紙のイメージ、巻頭にある会社が教科書を作るにあたって大事にしているところ、この教科で生徒が自分たちで何を学ぶのかという指針、領土等の内容等について、内容については例えば領土問題がどういう形で書いてあるか、ビジュアルの時代である現在において写真やグラフの見やすさ使われ方、マーク等で振り返らせるような工夫等、有効に入れてあるかについて比較研究した。各発行者で大きな遜色はないが、総合評価では東京書籍がよい。次に教育出版、帝国書院である。1発行者となると東京書籍である。

(委員)

帝国書院がよい。学習を振り返ろうのページが見開きの構成、書き込みができるといった工夫がある。また各ページで見出しが色別で見やすく工夫されている。

(委員)

東京書籍も帝国書院の内容もよい。

(委員長)

帝国書院、東京書籍の2発行者の案でよいか。

(委員)

異議なし。

歴史

(委員長)

次に社会科の歴史分野について協議する。

(委員)

内容について研究した。地理と同様に国境線、南京虐殺についての記述の違い、先の戦争に向かっていった頃の記述、沖縄についての多くの民間人を巻き込んだという記述等について、各項目を比較研究した。歴史は日本人の心につながっていく。内容、写真等各項目を精査すると、第2次世界大戦等の記載においては、偏りがあると考えられる文章が散見するものもあった。総合的に考えると、東京書籍がよい。次に帝国書院である。

(委員)

近現代史は大事なところである。歴史はただ覚えるだけではなく、それを踏み台にしてどう生きるかということでもある。国際社会で平和に生きていく、いろいろな見方を身に付けさせたい。物事をいろいろな角度から見る訓練が必要である。そういう意味で

は。育鵬社を薦める。あえて2番目を挙げるとしたら。帝国書院である。

(委員)

東京書籍がよい。題材について主体的に学ぶ態度を養う工夫がある。教科書の見開きを1単位時間で学ぶようにしてある。用語の解説、この時代の何を学習するか、一つの事例をめぐって立場の違いによってその違いを考える等のバランスが大事である。帝国書院もよい。歴史を大きくつかむように、古代から現代、日本の世界の中での位置、世界の中での歴史を理解する具体的なイメージをもたせる工夫がある。育鵬社は、平和に対する罪について丁寧に記されていた。しかし、全体のバランスからいうと東京書籍がよいと考える。

(委員)

東京書籍がよい。生徒が調べ学習を行うときに活用できる工夫がある。バランスよく中学生が学ぶようになっている。育鵬社は、大きな歴史の帯に主だった人物や事柄等を挙げ、流れを把握してから、細かいところを学ぶようになっているところはよい。しかし、もう少しバランスが取れているとよいと考える。よって、東京書籍を推薦する。

(委員長)

推薦の多い、東京書籍と帝国書院とする。よろしいか。

(委員)

異議なし。

公民

(委員長)

次に社会科の公民分野について協議する。

(委員)

人権問題において、拉致にふれていないものは、薦められない。自衛隊についてじっくりしない記述もある。今の社会に合うものの表記が必要である。育鵬社を薦める。

(委員)

東京書籍がよい。自衛隊、領土問題について本文で扱い、その後に公民アクセスというところで詳しく説明されている。バランスのある記述である。育鵬社は、力を入れているところと逆に薄いところがある。教科書は、いろいろな情報をしっかり与えるようになってさらにバランスをもった記述があるものがよい。東京書籍は、「持続可能な社会を目指して」を取り上げているが、子供たちが30年後を見据えることは必要なことである。よって、東京書籍がよい。

(委員長)

育鵬社、東京書籍の2社を案としてよいか。

(委員)

東京書籍がよい。教科書は、一つの考えをすりこむことではなく、一つの判断材料と

なるものがよい。それによって子供たちが考えていくものがよい。

(委員)

すりこみということではなく、多面的なものの見方をもたせる必要があるということである。

(委員)

基本は、こうだと教える。忠実に教えるのが教育。中学生に原理原則を教えるものがよい。一つ選ぶとすると、東京書籍がよい。

(委員長)

まとめると、東京書籍を案とする。いかがか。

(委員)

異議なし。

地図

(委員長)

地図について協議する。

(委員)

帝国書院がよい。写真、図、地図が一体化しており見やすくする工夫がある。どこに何があるか、四角で文字を囲んだり色ではっきりさせたり等、明確にしている。見やすく探しやすい。

(委員)

帝国書院がよい。統計において、日本の主な産物の詳しいデータがある。

(委員)

総合的に帝国書院であるが、東京書籍はこの地図で何を学ぶのかということがきちんと記されている。世界の地形では、2ページにわたり、かなり細かく記されている。帝国書院は領土問題について、写真と文章でより詳しく記している。

(委員長)

帝国書院を案とする。よろしいか。

(委員)

異議なし。

数学

(委員長)

数学について協議する。

(委員)

教育出版と数研出版がよい。教育出版は、数学的なものを日常的なことから応用へと考える力を育む工夫がある。基礎・基本から発展へと流れがある。数研出版は、数学を

身近に感じられる導入の工夫がある。思考力・表現力を高めることができる。基礎・基本を楽しめる、論理的な思考の楽しさを感じさせる工夫がある。

(委員)

日常生活にどのように活用できるか大事である。数学嫌いにならないようにするのは大事である。啓林館の別冊はうまく使えば数学に親しみやすくなる。本体の方は、数学の大事なところは落とさず学ぶことができる。

(委員)

私も啓林館もよい。

(委員)

啓林館がよくできている。中学に入って、数学の嫌いな子をつくらない。まずは、1年生の初めの部分、マイナスをどうやって言葉と結び付けて理解させていくか、各教科書20ページ弱使っている。その中で、無理なくステップを踏むように自然に学べる東京書籍がよい。

(委員)

中学生になる時の、ギャップがないようにするのが大事。数学嫌いにならないよう、子供を育てることは、大きな課題である。

(委員)

啓林館がよい。配列、ノート書き方、学習の手だて等が見本を示してあって工夫されている。学びをつなげよう、生かそうということでポイントが絞られている。

(委員長)

啓林館を案とする。よろしいか。

(委員)

異議なし。

理科

(委員長)

理科について協議する。

(委員)

学校図書がよい。「科学を仕事に生かす」という項目で、学んだことが発展的に職業につながっているという紹介がよい。全体的に、理科は実験・観察、考えよう等は同じである。教育出版は、自発的な学習させようという意図を感じる。科学的な見方、課題に対する調べ方等を気付かせる工夫がある。単元の終わりに基本と応用・活用の問題がある。高校へつなげられる問題も入っている。

(委員)

教育出版は、要点等が見やすい。活用・応用があつてよい。

(委員)

教育出版がよい。分かりやすく、基礎・基本が身に付けられる教科書である。

(委員長)

教育出版が3名の推薦があった。基礎・基本から応用まで幅広く含まれているということで、教育出版でよろしいか。

(委員)

東京書籍もよい。とても丁寧、図と説明がとても分かりやすい。

(委員)

教育出版の、つながりが記述されているページは、分かりやすい。理科嫌いにならない生活に結び付く。学校図書もよい。

(委員長)

教育出版を1番、学校図書を2番という、順を付けて案としてよいか。

(委員)

異議なし。

音楽

(委員長)

音楽について協議する。

(委員)

教育芸術社を推薦する。巻頭の音楽学習マップにより、歌唱、創作、鑑賞の3つの分野について学習内容の関連付けが行われていて分かりやすい。創作する楽しさを感じられるような工夫がある。

(委員)

教育芸術社がよい。日本や諸外国の音楽文化について理解できるようにしている。世界と日本の代表的なものを載せており、現代の中学生に覚えてほしいものであると考える。「世界に誇れる日本の宝物」というところでの楽器の紹介もよい。

(委員)

器楽でも教育芸術社を推薦する。説明がとても分かりやすい。取り上げている楽器はどちらも同じようであるが、クラシック、フォークギターの二つを扱い、ジャンルによつての違いを取り上げている。

(委員)

教育出版は古い教材が比較的多い。教育芸術社は新しいものがあり、子供の関心を引くという意味では教育芸術社がよい。

(委員長)

音楽の一般・器楽共に、教育芸術社にする。よろしいか。

(委員)

異議なし。

美術

(委員長)

美術について協議する。

(委員)

どれもよいが、開隆堂は、美術を通して社会にかかわりを持ち、人と違うところ・人と共感するところ・表現することによって、美術を愛する心を育てる教科書である。多くの作品を載せてあって関心を引くようにしてある。光村図書は、美しく色彩を感じる作品が多かった。絵だけでなく、工芸品や仏像・彫刻なども多く載せている。日文は、日常生活の美術の表現の仕方を取り上げている。

(委員)

最初のところで光村図書、日文はだいたい同じことを言っている。開隆堂は、さらに他の人が作ったものを理解することでコミュニケーションができると言っている。他の人の表現を理解しようとするということは、その人を理解することにつながると言っている。共に生きていくと言っているところがよい。光村図書は絵等の資料がよい。また、色彩もよい。日文はゴッホの絵やオリンピックのマークのデザインのよさを取り上げている。開隆堂は、モネの絵や不思議な昆虫博物館を取り上げている。総括として、美術の観点、写真の美しさ、すごさ、生徒の支援のよさ等から光村図書がよい。

(委員)

どれもよく、あまり違いを感じなかった。

(委員)

どの教科書もよかった。絞れないほどよいものであった。

(委員長)

それでは光村図書を案とする。よろしいか。

(委員)

異議なし。

保健体育

(委員長)

保健体育について協議する。

(委員)

4 発行者ともにそれぞれよく、特徴がある。東京書籍は、より詳しく情報量が多い。もっとシンプルでもよい。そういう意味では、大日本図書と学研はシンプルでよい。学研はコラムがあり、そこに詳しいことが書かれている。AEDについてどこも取り上げてあったが、その中でも図が詳しくて状況判断をしやすいように4ページにわたって取り上げていた東京書籍と学研がよい。東日本大震災について学研は時間を追って復興の

様子を進行形で取り扱っている。スポーツを楽しむというところでは、プロ選手が多く扱われているが、学研は中学生を取り上げていて将来につながりやすい。学研と大日本図書がよい。

(委員)

大修館は、目次の下に「中学生のあなたへ」のメッセージがいい文章である。次の東京オリンピック・パラリンピックや喫煙と健康では、疾患との関係をしっかりと書いてある。大修館がよい。

(委員)

大修館がよい。どうしてスポーツをするのか、安全なスポーツの行い方、スポーツをすることにより一生を通してスポーツをすることにより生活が豊かになるという捉え方をしているところがよい。体の発達や病気や予防への広がりがあり、興味・関心をもたせる工夫がある。次に見やすく、見開きで1単位時間にコンパクトにまとめられた構成となっている学研がよい。

(委員長)

大修館と学研2つを案としたい。よろしいか。

(委員)

異議なし。

技術・家庭（技術分野）

(委員長)

技術・家庭の技術分野について協議する。

(委員)

表紙のイメージをもって、内容を読んでみた。内容を見ていくと、開隆堂がよい。例えば学びの工夫では各章ごとに振り返り事項が入れてある。分かりやすく丁寧である。3発行者とも優れているが、調査した各領域で優れていた開隆堂を推薦する。次に東京書籍がよい。

(委員)

学習の動機づけは開隆堂がよい。中学生のキャラクターが、中学生目線の分かりやすい課題が書かれているのもいい。東京書籍は、内容が詳しいが、情報量が多すぎるところがある。総合的には開隆堂がよい。

(委員長)

技術分野は、開隆堂とする。よろしいか。

(委員)

異議なし。

技術・家庭（家庭分野）

(委員長)

技術・家庭の家庭分野について協議する。

(委員)

3 発行者とも同じくらいよいが、教育図書は今までとは切り口が違い、家庭科の学習に入りやすい。写真や絵が多く見やすい。キャラクターによる話し合いから、分かりやすくする工夫がある。

(委員)

開隆堂は、自分のこととして課題を取り上げ、主体的に学ぶ構成となっている。家族の取り上げ方でも、家庭環境に配慮した取り上げ方をしている。必要な情報が掲載されている開隆堂を薦める。

(委員)

子供たちに知っておいてほしい、消費生活のトラブルについて、ロールプレイを通して主体的に学ぶ工夫のある開隆堂がよい。

(委員長)

教育図書、開隆堂の2 発行者を案とする。よろしいか。

(委員)

異議なし。

外国語

(委員長)

外国語について協議する。

(委員)

どれもとてもすばらしいつくりである。「聞く、話す、読む、書く」の4つのバランスがよく学習の工夫をどこもしている。その中で、推薦するとしたら、開隆堂と学校図書である。開隆堂は、基礎的な技能を習得させる場面でいろいろと工夫がなされている。「できるようになったことリスト」でチェックができる。会話例集、クイックQ&A等を扱っている工夫がある。どの教科書も教材がどこも素晴らしい。英語の教材を通して、国際、平和、環境、人権について丁寧に取り上げ、教材を通して学べるようになっている。中でも開隆堂は、子供たちの興味を引くような教材を取り上げている。

(委員)

開隆堂は、子供にとって親しみやすく、面白い教材を扱っている。英語を学びながら、国際的な問題にふれる工夫がある。

(委員長)

開隆堂と学校図書の2 発行者を案とする。よろしいか。

(委員)

異議なし。

(委員長)

それでは、決定した案を読み上げる。国語は、教育出版と光村図書を並列で。書写は、教育出版と光村図書を並列で。社会科の地理的分野は、東京書籍と帝国書院を並列で。歴史的分野は、東京書籍と帝国書院を並列で。公民的分野は、東京書籍。地図は、帝国書院。数学は、啓林館。理科は、1番が教育出版、2番が学校図書。音楽の一般は、教育芸術社。音楽の器楽合奏も教育芸術社。美術は、光村図書。保健体育は、大修館と学研を並列で。技術家庭の技術分野は、開隆堂。家庭科分野は、教育図書と開隆堂を並列で。外国語は、開隆堂と学校図書を並列で。

(委員長)

以上で、平成28年度使用中学校用教科用図書の採択原案について協議を終了する。